

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 7 年 6 月 20 日

1. 観光地域づくり法人の組織

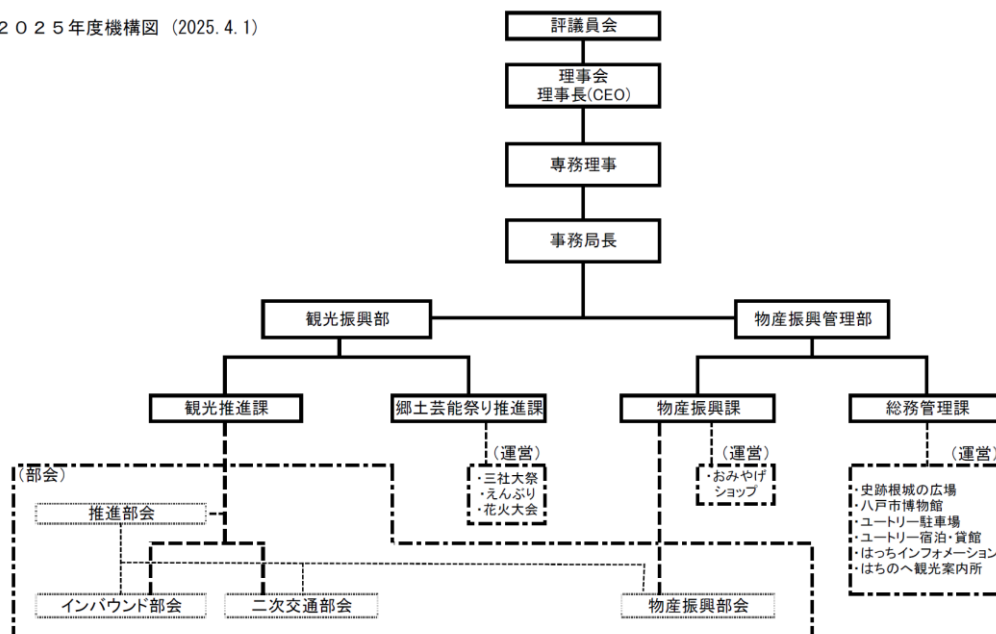
申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・ <u>地域連携DMO</u> ・地域DMO	
観光地域づくり法人の名称	一般財団法人 VISIT はちのへ	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町	
所在地	青森県八戸市	
設立時期	平成 31 年 4 月 1 日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	87 人【常勤 27 人（正職員 21 人・出向等 6 人）、非常勤 60 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 佐々木 伸夫 （出身組織名） （公社）八戸観光コンベンション協会	当団体の前身団体の 1 つである（公社）八戸観光コンベンション協会の副会長を務め、当団体設立以後も副理事長として当団体の事業を牽引し、令和 6 年 7 月 11 日に理事長に就任した。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 阿部 寿一「専従」 （出身組織名） 八戸市	令和 3 年 3 月末まで八戸市庁に勤務し、観光行政のほか、広報、統計、公営企業事業、議会と幅広い経験と知見を持つ。現在は、専務理事として、データ分析に基づく事業を統括している。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 柿本 誠「専従」 （出身組織名） （一財）八戸地域地場産業振興センター	（一財）八戸地域地場産業振興センターに勤務し、現在は物産振興管理部長兼総務管理課長として、当地域の物産振興および自社施設の管理運営に関する事業を統括しており、持続可能な団体運営のため、財務状況の改善や財源確保に取り組む。
事務局長	（氏名） 北村 政則 （出身組織名） 八戸市	令和 7 年 4 月 1 日から八戸市より出向。 VISIT はちのへの事務を掌握し、所属職員を指揮監督する。
観光振興部門の責任者	（氏名） 高村 博現「専従」 （出身組織名） （一財）八戸地域地場産業振興センター	（一財）八戸地域地場産業振興センターに勤務し、現在は観光振興部長兼郷土芸能祭り推進課長として、当地域の観光振興、経営戦略、郷土芸能祭りに関する事業を統括している。

物産振興部門の責任者	(氏名) 根城 英忠「専従」 (出身組織名) (一財)八戸地域地場産業振興センター	(一財)八戸地域地場産業振興センターに勤務し、現在は物産振興課長として、自施設における展示即売事業、八戸市ふるさと寄附金 PR 支援事業、JR 駅等での物産展を行う物産推進事業等を所管し、物産振興に取り組んでいる。
観光誘客、プロモーション部門の責任者	(氏名) 新山 雄大 (出身組織名) 八戸市	令和 6 年 4 月 1 日から八戸市より出向。 経営計画立案、事業計画、地域内の観光資源を活用した旅行商品造成支援や広報プロモーション等に関する事業に取り組んでいる。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸市観光課(観光誘客)、八戸市商工課(物産振興) ・八戸市水産事務所(観光誘客、物産振興) ・三戸町まちづくり課(観光誘客、物産振興) ・五戸町総合政策課(観光誘客、物産振興) ・田子町商工振興課(観光誘客、物産振興) ・南部町商工観光課(観光誘客、物産振興) ・階上町産業振興課(観光誘客、物産振興) ・新郷村企画商工観光課(観光誘客、物産振興) ・おいらせ町商工観光課(観光誘客、物産振興) ・青森県観光政策課・誘客交流課(観光誘客) ・青森県産品販売・輸出促進課(物産振興) ・青森県三八地域連携事務所(観光誘客) 	
連携する事業者名及び役割	<p>【観光誘客における連携事業者】</p> <p>八戸商工会議所、鮫観光協会、種差観光協会、南郷観光協会、三戸町観光協会、五戸町観光協会、田子町観光協会、南部町観光協会、はしかみ観光ネットワーク、新郷村観光協会、おいらせ町観光物産協会、(株)金剛、(株)西町、協同組合八食センター、八戸ホテル協議会、三八五流通(株)、青い森信用金庫、岩手県北自動車(株)、JR 東日本旅客鉄道(株)盛岡支社、(株)AC プロモート、北辰工業(株)、(株)大山建工、八戸酒造(株)、八戸金融団、八戸市交通部、八戸市タクシー協会、湊日曜朝市会、八戸横丁連合協議会、八戸情報共有会、環境省(株) (R6 年度まで役員：有限会社郷アルパジョン、太子食品工業株式会社、株式会社オリエントアルファーム)</p> <p>【物産振興における連携事業者】</p> <p>八戸商工会議所、南郷商工会、三戸町商工会、五戸町商工会(新郷支所含む)、田子町商工会、南部町商工会、階上町商工会、おいらせ町商工会、(株)テクノス、(株)味の海扇堂、かねご製餡(株)、八戸中央青果(株)、(株)ヴァンタス、(株)金入 三八地区商工会連絡協議会、八戸水産加工業協同組合連合会、協同組合八戸総合卸センター</p>	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>【該当する登録要件】①(取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参加)</p> <p>VISIT はちのへでは、観光地域づくり法人としての意思決定過程において、行政や民間、産業団体等の幅広い関係者が参画する仕組みを構築し、産業間・地域間における持続的な連携と合意形成を図っている。</p> <p>■評議員会： 圏域内の副市長・副町長・副村長に加え、青森県、地域の物産事業者、産業団体の代表者などから構成される評議員会を年 1 回程度開催し、地域全体の方向性について意見交換を行い、官民・産業間の合意形成を図っている。</p> <p>■理事会： 観光物産事業者、宿泊事業者、交通・流通事業者、金融機関など、多様な民間関係者を中心とする理事会を年 4 回程度開催し、事業計画や地域戦略に関する意思決定と、産業間・地域間での具体的な連携促進を行っている。</p>	

	<p>■VISIT はちのへ推進部会： 圏域内の行政機関、観光団体、商工団体等の関係機関で構成される「VISIT はちのへ推進部会」を年1回開催し、当団体の事業に対する理解促進とともに、関係者からの意見聴取・情報共有を通じた合意形成の場としている。</p>						
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	<p>観光地域づくりの意義や地域資源の魅力について地域住民の理解を深め、主体的な参画を促すことを目的に、以下の取組を実施している。</p> <p>■セミナーの開催 当団体の取組や観光地域づくりの重要性について広く知っていただくため、当団体の会員をはじめとした地域住民を対象にセミナーを年1～2回程度開催している。外部講師による講演や意見交換を通じて、意識啓発と関心の醸成を図っている。</p> <p>■メディアを活用した意識啓発の実施 当団体が行う事業の目的や意義を地域住民に伝える手段として、地元新聞、テレビ、ラジオ等のメディアを活用している。プレスリリースを随時発信し、報道を通じて地域全体に観光地域づくりの意義を共有することで、住民の意識醸成につなげている。</p>						
法人のこれまでの活動実績	<p>【活動の概要】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th><th>2024 年度（令和6年度）実施概要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報発信・プロモーション</td><td> <p>【国内】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当団体 HP による情報発信。SEO を意識した新規ページ等を公開。 当団体 SNS（X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook）で、当圏域の旬な情報を毎日発信。 当団体の実施事業およびイベント情報等のプレスリリースを実施。 当圏域の観光・物産素材の写真提供およびメディア等からの依頼による観光情報等の記事掲載にかかる校正対応。 当圏域の観光・物産情報の露出機会増加を目的に、首都圏等のメディア訪問や招聘ツアーの実施。 オンライン広告の配信（首都圏等の20代以上の男女、お祭り、イベント、お出かけ、自然、アウトドア等への興味関心層がターゲット） 観光ガイドブックや周遊マップ、祭りのポスター制作 当圏域の魅力を広く国内外に伝えるために必要となる観光・物産資源の写真および動画撮影 <p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当団体英語版 SNS での情報発信。 三沢米軍基地のサイネージを活用した広告配信。 台湾市場へ現地レップの配置によるセールス活動。 台湾旅行博への出展による当圏域のプロモーション。 台湾等の海外インフルエンサーの招請ツアー実施。 </td></tr> <tr> <td>受入環境の整備</td><td> <ul style="list-style-type: none"> 三陸復興国立公園種差海岸で活動するガイド育成を目的に、種差海岸を観光ガイドと歩くプログラムを実施。 種差海岸エリア観光ガイド団体情報交換会の実施。 種差海岸エリアを拠点としたレンタサイクルの導入。 八戸市の主要観光スポットへの移動の利便性向上による誘客促進を目的とした周遊バスの運行補助。 観光スポット：館鼻岸壁朝市 </td></tr> </tbody> </table>	事業	2024 年度（令和6年度）実施概要	情報発信・プロモーション	<p>【国内】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当団体 HP による情報発信。SEO を意識した新規ページ等を公開。 当団体 SNS（X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook）で、当圏域の旬な情報を毎日発信。 当団体の実施事業およびイベント情報等のプレスリリースを実施。 当圏域の観光・物産素材の写真提供およびメディア等からの依頼による観光情報等の記事掲載にかかる校正対応。 当圏域の観光・物産情報の露出機会増加を目的に、首都圏等のメディア訪問や招聘ツアーの実施。 オンライン広告の配信（首都圏等の20代以上の男女、お祭り、イベント、お出かけ、自然、アウトドア等への興味関心層がターゲット） 観光ガイドブックや周遊マップ、祭りのポスター制作 当圏域の魅力を広く国内外に伝えるために必要となる観光・物産資源の写真および動画撮影 <p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当団体英語版 SNS での情報発信。 三沢米軍基地のサイネージを活用した広告配信。 台湾市場へ現地レップの配置によるセールス活動。 台湾旅行博への出展による当圏域のプロモーション。 台湾等の海外インフルエンサーの招請ツアー実施。 	受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 三陸復興国立公園種差海岸で活動するガイド育成を目的に、種差海岸を観光ガイドと歩くプログラムを実施。 種差海岸エリア観光ガイド団体情報交換会の実施。 種差海岸エリアを拠点としたレンタサイクルの導入。 八戸市の主要観光スポットへの移動の利便性向上による誘客促進を目的とした周遊バスの運行補助。 観光スポット：館鼻岸壁朝市
事業	2024 年度（令和6年度）実施概要						
情報発信・プロモーション	<p>【国内】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当団体 HP による情報発信。SEO を意識した新規ページ等を公開。 当団体 SNS（X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook）で、当圏域の旬な情報を毎日発信。 当団体の実施事業およびイベント情報等のプレスリリースを実施。 当圏域の観光・物産素材の写真提供およびメディア等からの依頼による観光情報等の記事掲載にかかる校正対応。 当圏域の観光・物産情報の露出機会増加を目的に、首都圏等のメディア訪問や招聘ツアーの実施。 オンライン広告の配信（首都圏等の20代以上の男女、お祭り、イベント、お出かけ、自然、アウトドア等への興味関心層がターゲット） 観光ガイドブックや周遊マップ、祭りのポスター制作 当圏域の魅力を広く国内外に伝えるために必要となる観光・物産資源の写真および動画撮影 <p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当団体英語版 SNS での情報発信。 三沢米軍基地のサイネージを活用した広告配信。 台湾市場へ現地レップの配置によるセールス活動。 台湾旅行博への出展による当圏域のプロモーション。 台湾等の海外インフルエンサーの招請ツアー実施。 						
受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 三陸復興国立公園種差海岸で活動するガイド育成を目的に、種差海岸を観光ガイドと歩くプログラムを実施。 種差海岸エリア観光ガイド団体情報交換会の実施。 種差海岸エリアを拠点としたレンタサイクルの導入。 八戸市の主要観光スポットへの移動の利便性向上による誘客促進を目的とした周遊バスの運行補助。 観光スポット：館鼻岸壁朝市 						

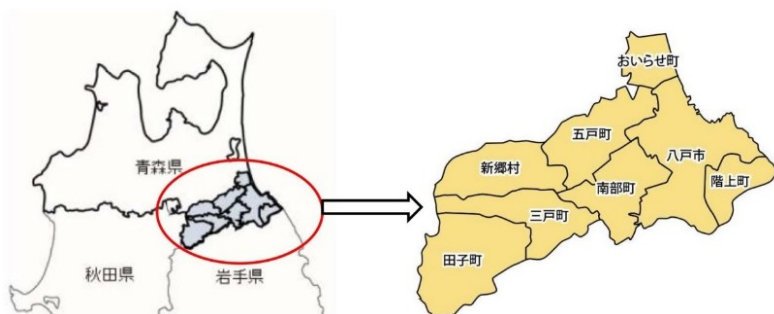
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="422 181 614 448"></td><td data-bbox="614 181 1485 448"> <p>周遊バス：日曜朝市循環バス「いさば号」（4月～12月・毎週日曜日運行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光スポット：三陸復興国立公園 蕪島・種差海岸エリア <p>周遊バス：種差海岸遊覧バス「ワンコインバス・うみねこ号」（4月～11月（夏季）、11月～3月（冬季）の土日祝運行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちのへ観光案内所の運営（市委託事業） </td></tr> <tr> <td data-bbox="422 448 614 560">観光資源の磨き上げ</td><td data-bbox="614 448 1485 560"> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成を目的とした招請ツアーの実施。 ・地元事業者と連携した体験プログラム等の開発および観光資源のブラッシュアップ。 </td></tr> </table> <p>（定量的な評価）</p> <p>■情報発信・プロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの新規ページの公開（38件）、閲覧数約237万PV。 ・SNSでの発信（542回） ・プレスリリース回数（19回） ・メディア訪問、メディア招請ツアーの実施（6回） ・オンライン広告の配信 3コンテンツ <p>①八戸三社大祭：6/18～7/31（表示回数 472万回、クリック数 56,784回）</p> <p>②種差海岸：8/21～1/31（表示回数 2,098万回、クリック数 67,070回）</p> <p>③八戸えんぶり：11/20～1/31（表示回数 326万回、クリック数 62,384回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語版SNSでの発信（50回） ・台湾市場へのセールス活動（72件） ・海外インフルエンサー招請ツアーの実施（5回） <p>■受入環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種差海岸を観光ガイドと歩くプログラム（年間24回/参加者数 74人） ・種差海岸エリア観光ガイド団体情報交換会（1回） ・種差海岸エリアレンタサイクル（利用者数 44人） ・種差海岸遊覧バス（利用者数 25,870人） ・日曜朝市循環バス（利用者数 6,253人） ・はちのへ観光案内所での案内件数（9,153件 うち、外国人1,777件） <p>■観光資源の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成を目的とした招請ツアーの実施。（国内旅行会社 3社、海外インフルエンサー等 5社） 		<p>周遊バス：日曜朝市循環バス「いさば号」（4月～12月・毎週日曜日運行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光スポット：三陸復興国立公園 蕪島・種差海岸エリア <p>周遊バス：種差海岸遊覧バス「ワンコインバス・うみねこ号」（4月～11月（夏季）、11月～3月（冬季）の土日祝運行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちのへ観光案内所の運営（市委託事業） 	観光資源の磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成を目的とした招請ツアーの実施。 ・地元事業者と連携した体験プログラム等の開発および観光資源のブラッシュアップ。
	<p>周遊バス：日曜朝市循環バス「いさば号」（4月～12月・毎週日曜日運行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光スポット：三陸復興国立公園 蕪島・種差海岸エリア <p>周遊バス：種差海岸遊覧バス「ワンコインバス・うみねこ号」（4月～11月（夏季）、11月～3月（冬季）の土日祝運行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちのへ観光案内所の運営（市委託事業） 				
観光資源の磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行商品造成を目的とした招請ツアーの実施。 ・地元事業者と連携した体験プログラム等の開発および観光資源のブラッシュアップ。 				
<p>実施体制</p> <p>※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>【実施体制の概要】</p> <p>VISIT はちのへは、行政、民間事業者、観光関連団体、産業団体等の幅広い関係者が参画する意思決定体制を整備しており、産業間および地域間の持続的な連携と合意形成を図ることを基本方針としている。</p> <p>この方針に基づき、以下の会議体を通じた協議・調整を通じて、地域一体となった観光地域づくり法人の体制を確立し、運営をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VISIT はちのへ評議員会（年1回程度） ・VISIT はちのへ理事会（年4回程度） ・VISIT はちのへ推進部会（年1回程度） <p>【実施体制図】次ページ</p>				

2025年度機構図 (2025. 4. 1)



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

・VISIT はちのへがマネジメント及びマーケティングを担う区域は、八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町の8市町村で構成される。これらの地域は、藩政時代から歴史的・文化的なつながりが深く、共通の方言や粉もの文化など、独自性の強い文化を共有してきたエリアである。現在は、八戸圏域連携中枢都市圏を形成し、地域活力の創出を目的とした広域連携の取り組みを推進しており、観光分野でも行政・民間・産業団体が連携した体制が構築されている。

・当該エリアにおいて平成20年に設立された「八戸広域観光推進協議会」(VISIT はちのへの事業統合団体)が、産官学民の垣根を越えた連携のもとで、地域資源を活かした観光商品・メニューの開発・商品化を進め、受入体制の整備と観光を通じたまちづくりにも取り組んできた。平成29年には、行政・商工・観光団体等が連携して「はちのへエリア広域観光戦略」を策定し、エリア全体での将来像と具体的な方向性を共有している。

・今後、観光需要の回復に伴う国内外の旅行ニーズの多様化、長期滞在型・体験志向型観光へのシフト、訪日外国人旅行者の拡大など、社会経済環境の変化に柔軟に対応しながら、観光を通じ

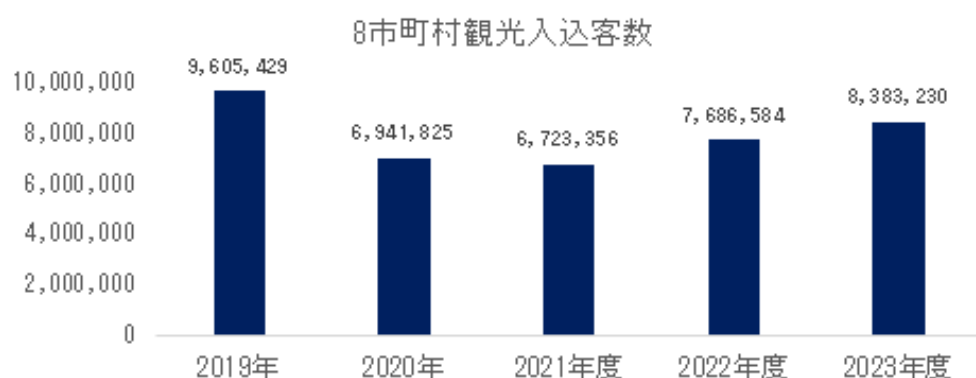
た地域産業の振興と持続可能な地域づくりを進めるためには、本エリアが一体となって観光地域づくりを推進していくことが不可欠である。よって、当該8市町村を対象区域とすることは、地域の特性や実績、今後の戦略的整合性から見ても適切である。

【観光客の実態等】

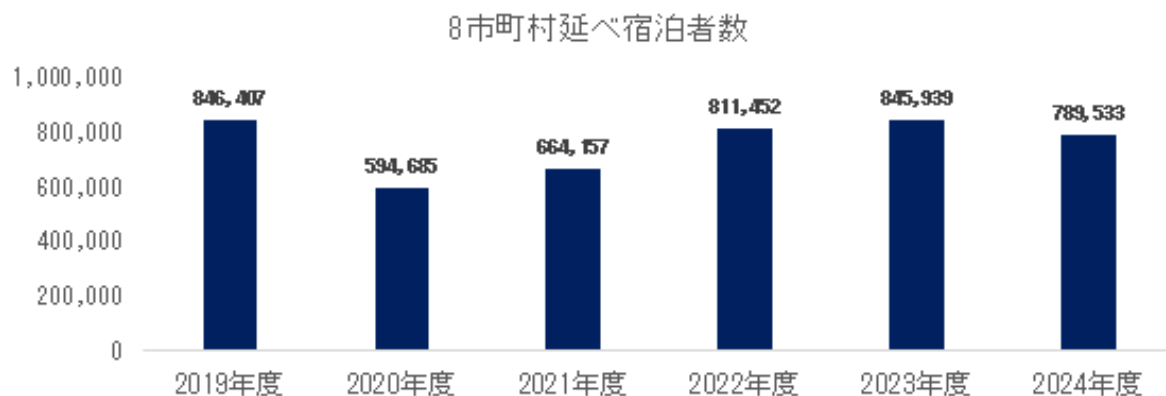
※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

当圏域の2024年度延べ宿泊者数は、789,533人泊（前年度比約95.4%）となり、令和元年度比約93%と、人流がコロナ禍前の水準まで回復傾向にある。

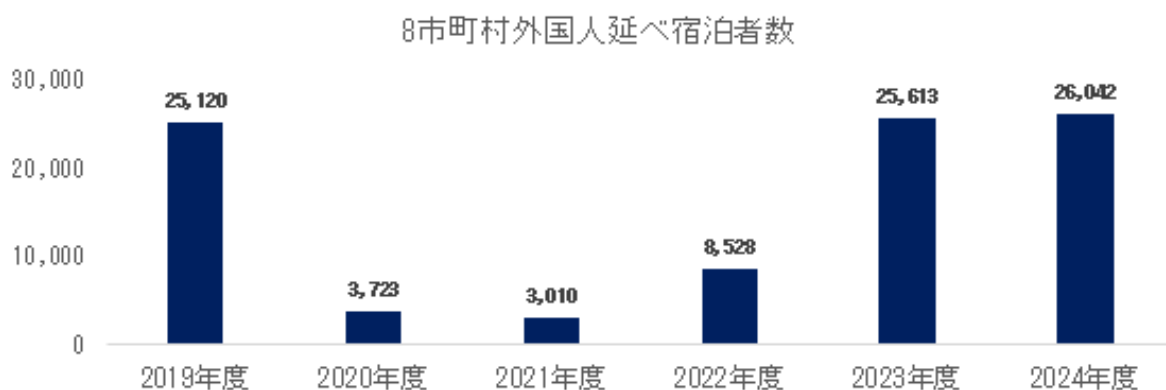
当圏域内の2024年度外国人延べ宿泊者数は、前年度を上回った。また、宿泊客の1人当たりの平均旅行消費額は25,979円（前年度比98%）となり、前年度に比べて特に宿泊費が増加している。宿泊客の居住都道府県は、東京都・神奈川県が前年度に比べて増加しており、宿泊客全体の約3割程度を占める。



出典：令和5年青森県観光入込客統計



出典：一般財団法人VISITはちのへが行った8市町村宿泊実績調査



出典：一般財団法人VISITはちのへが行った8市町村宿泊実績調査

	宿泊客	前年度比	日帰り客	前年度比	順位	都道府県名	前年度比	構成比率
平均旅行消費額（1人当たり 単位:円）	25,979	98%	4,931	95%	1	東京都	119%	20%
お土産費	4,865	98%	1,912	94%	2	青森県	85%	18%
飲食費	7,326	90%	1,975	100%	3	神奈川県	92%	9%
交通費	2,434	117%	770	90%	4	宮城県	100%	8%
宿泊費	10,752	103%			5	岩手県	108%	8%
施設入場料や体験料、その他	601	86%	274	76%				

出典：はちのへエリアマーケティング調査（VISIT はちのへ調べ）

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

- ・地元ガイドが館鼻岸壁朝市や横丁を案内する「まちあるき」
- ・はちのへエリアの豊かな食を支える農家で収穫体験や調理体験を通して、地域の人とのふれあいができるコンテンツ
- ・農家民泊での田舎体験など、ゆっくりとしたやすらぎの時間を過ごすことができるコンテンツ
- ・歴史のある酒蔵を見学し当エリアの地酒のファンになってもらうコンテンツ
- ・ガイドが案内する三陸復興国立公園種差海岸のトレッキングや、海でのアクティビティが楽しめるコンテンツ
- ・YSアリーナやFLAT HACHINOHE の MICE 施設としての活用

※観光資源となる自然、歴史・民俗、食、観光施設等の一覧は下記の通り。

市町村名 分野	八戸市		三戸町
自然景勝地	・三陸復興国立公園（種差海岸・蕪島） ・みちのく潮風トレイル ・三陸ジオパーク ・八戸市民の森「不習岳」		・三戸城跡城山公園
歴史・民俗	・櫛引八幡宮 （国宝 赤糸織鎧兜大付、 白糸織袂取鎧兜大袖付） ・清水寺観音堂 ・八戸市埋蔵文化財セン ター 是川縄文館 （国宝 合掌土偶） ・史跡根城跡 ・史跡是川石器時代遺跡 （ユネスコ世界文化遺産） ・蕪嶋神社	・更上閣（主屋等） ・八戸酒造 ・八戸酒類 ・八戸えんぶり ・八戸三社大祭 ・加賀美流騎馬打毬 ・鮫の神楽 ・法霊神楽	・三戸城跡城山公園 ・関根の松 ・奥州街道、駕籠立場一里塚 ・斗内千人塚 ・泉山の登拝行事 ・佐藤家建物群 ・斗内獅子舞
スポーツ施設	・YS アリーナ ・長根公園 ・新井田公園 ・新井田インドアリンク ・東運動公園 ・FLAT HACHINOHE	・南部山健康運動公園 ・八戸市多賀多目的運動 場 ・八戸市屋内トレーニング センター	・三戸町スポーツ文化福祉 複合施設（アップルドーム） ・町民体育館 ・サン・スポーツランド三戸 ・松原運動公園 ・さんのへパークゴルフ場

		・カッコーの森エコーランド	
芸術文化施設	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸市公会堂 ・八戸市美術館 ・八戸市博物館 ・安藤昌益資料館 ・南部会館 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽仁もと子記念館 ・南郷文化ホール ・ジャズの館 ・南郷歴史民俗資料館 ・八戸ブックセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史民俗資料館 ・アップルドームほのぼの館
レクリエーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸公園（こどもの国、植物公園） ・白浜海水浴場 ・蕪島海水浴場 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産科学館マリエント ・種差キャンプ場 ・山の楽校 	<ul style="list-style-type: none"> ・金洗沢公園 ・三戸城跡城山公園
産直施設	<ul style="list-style-type: none"> ・八菜館 ・道の駅なんごう ・朝もやの館 		<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅さんのへ ・S A N・S U N産直ひろば
会所場	・八戸ポータルミュージアム「はっち」		・まちなちの楽校
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・種差インフォメーションセンター ・グレットタワーみなと ・世増ダム（青葉湖） ・八戸石灰鉱山（八戸キャニオン） ・八食センター ・ユートリー ・中央卸売市場 ・八戸市魚菜小売市場 ・館鼻岸壁朝市等の朝市 	<ul style="list-style-type: none"> ・横丁文化（みろく横丁等） ・青森伝統工芸品（八戸焼、南部裂織、南部菱刺し、八幡馬、南部姫毬、えんぶり烏帽子、南部総桐箆等） ・八戸せんべい汁 ・八戸前沖さば ・八戸ブイヤベース ・南郷そば 	<ul style="list-style-type: none"> ・11 ぴきのねこの町 ・三戸望郷大橋 ・青森伝統工芸品（南部総桐箆等） ・つつけ（かっけ） ・ひつつみ ・三戸せんべい ・くしもち ・ジョミ（ガマズミ）

市町村名	五戸町	田子町
分野		
自然景勝地	<ul style="list-style-type: none"> ・桜沼公園 ・日本一のカシワの木 ・槍沢のしだれ桜 	<ul style="list-style-type: none"> ・みろくの滝 ・大黒森の山つつじ ・四角岳 ・白萩平
歴史・民俗	<ul style="list-style-type: none"> ・旧園子家住宅 ・石沢の駒踊り ・江渡家住宅 ・五戸代官所 ・奥州街道 ・新山神社 ・中市城址 ・寶福寺 ・五戸町消防団第一分団屯所 ・明治天皇行在所 ・館町神楽舞 ・中市神楽舞 ・五戸えんぶり 	<ul style="list-style-type: none"> ・奇峰学秀の仏像 ・若宮八幡宮（亀千代最期の地） ・旧橋本家住宅 ・田子神楽 ・真清田神社
スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ひばり野公園（陸上競技場〈天然芝サッカーコート〉、野球場、人工芝サッカー場、テニスコート） ・五戸ドーム ・倉石スポーツセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・創遊村229スキーランド ・農業者トレーニングセンター ・町民プール ・農山村広場
芸術文化施設	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史みらいパーク（図書館、木村秀政ホール） 	<ul style="list-style-type: none"> ・タプコピアンプラザ

レクリエーション 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぼのゆっこ ・五戸まきば温泉 ・小渡平公園 ・倉石温泉 ・ふれあい体験の郷 ・牧内森林公園 ・ひばり野ダリア園 ・正子のチューリップ園 	<ul style="list-style-type: none"> ・タプコブ創遊村 ・大雷鉢砂防愛ランド ・みろくの滝親水公園 ・みろく館
産直施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい市ごのへ ・夢の森ハイランド ・J A 八戸ごのへ直売所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーリックセンター ・J A 八戸田子ストア ・関所の茶屋 ・産直たっこや
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸酒類㈱五戸工場 ・青森伝統工芸品 (五戸ばおり、南部菱刺し、南部裂織) ・倉石牛 ・馬肉料理 ・青森シャモロック 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロジカウベル ・サンモールたっこ商店街 ・たっこにんにく ・田子牛 ・ガーリックステーキごはん

市町村名 分野	南部町	階上町
自然景勝地	<ul style="list-style-type: none"> ・名久井岳 ・法光寺の千本松 	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸復興国立公園(階上岳、階上海岸) ・みちのく潮風トレイル ・三陸ジオパーク
歴史・民俗	<ul style="list-style-type: none"> ・南部利康霊屋 ・南部利直霊屋 ・史跡聖寿寺館跡 ・白華山 法光寺 承陽塔(三重の塔) ・福田上えんぶり組 ・南部手踊り 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥屋部えんぶり ・赤保内駒踊り ・平内鶏舞 ・平内えんぶり ・田代えんぶり ・道仏神楽 ・寺下観音
スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> ・名川 B & G 海洋センター ・ふるさと運動公園 ・スパークながわ ・モーターランド S P ・ふくちアリーナ ・町民体育館 	<ul style="list-style-type: none"> ・石鉢ふれあい交流館 ・町民プール ・八戸カントリークラブ ・中央体育館 ・町民体育館 ・あおぞらテニスコート
芸術文化施設	<ul style="list-style-type: none"> ・南部芸能伝承館 ・名久井焼見学院窯陶芸の森美術館 ・楽楽ホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗資料収集館 ・道仏交流センター
レクリエーション 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくちふれあい体験農園 ・名川チェリリン村 ・長谷ぼたん園 ・ふるさとの森公園 ・バーデハウスふくち ・農林漁業体験実習館チェリウス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと河川公園 ・階上岳つつじの森キャンプ場 ・ハートフルプラザはしかみ ・わっせ交流センター ・交流の森広場 ・アスナ公園 ・山館前公園 ・鳥屋部農村公園 ・田代せせらぎ公園
産直施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくちジャックドセンター ・名川チェリーセンター ・そばの里けやぐ ・なんぶふるさと物産館 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅はしかみ ・フォレストピア階上 ・わっせ交流センター ・はしかみハマの駅 あるでい〜ば

その他	<ul style="list-style-type: none">・南部町営地方卸売市場・ポートピアなんぶ・ゼネラル・レクラーク・食用菊（阿房宮）・南部達者米・南部太ねぎ・ジュノハート	<ul style="list-style-type: none">・階上灯台、小舟渡園地・いちご煮・階上早生階上そば・早生そば加工品 （焼酎、ジェラート等）
-----	---	--

市町村名 分野	新郷村	おいらせ町
自然景勝地	<ul style="list-style-type: none">・水芭蕉群生地・迷ヶ平自然休養林・日本一ダケカンバ(樹木)・戸来岳・十和利山・権現の滝	<ul style="list-style-type: none">・根岸の大いちょう・間木堤白鳥飛来地・いちょう公園（自然散策道）
歴史・民俗	<ul style="list-style-type: none">・金ヶ沢鶏舞・ナニヤドヤラ・キリストの里公園（キリストの墓）・キリスト祭・大石神ピラミッド・三嶽神社（戸来、西越）・長泉寺（金ヶ沢）	<ul style="list-style-type: none">・氣比神社・本村鶏舞・史跡阿光坊古墳群・百石えんぶり・聖観世音菩薩立像・本村獅子舞・日ヶ久保虎舞・おいらせ百石まつり・おいらせ下田まつり・桃川・源義経の婦人の墓
スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none">・都市農村交流センター美郷館・村営金ヶ沢スキー場・村営プール	<ul style="list-style-type: none">・いちょう公園・下田公園・町民交流センター・いちょう公園体育館
芸術文化施設	<ul style="list-style-type: none">・キリストの里伝承館	<ul style="list-style-type: none">・大山将棋記念館・白鳥の家・民具ふれあい館・おいらせ阿光坊古墳館・縄文の森イベント広場
レクリエーション 施設	<ul style="list-style-type: none">・野沢温泉「鷺の湯」・新郷温泉館「鷺の湯」・間木ノ平グリーンパーク・間木ノ平グリーンファーム・迷ヶ平キャンプ場	<ul style="list-style-type: none">・しもだサーモンパーク・下田公園キャンプ場・カワヨグリーン牧場・海浜公園・いちょう公園
産直施設	<ul style="list-style-type: none">・道の駅しんごう・キリストっぽ	<ul style="list-style-type: none">・観光PRセンター「味祭館」・アグリノ里おいらせ・おはよう広場
その他	<ul style="list-style-type: none">・川代ものづくり学校・田んぼの楽校・新郷飲むヨーグルト・新郷生キャラ煎餅・長芋焼酎 郷の華・郷のきみ	<ul style="list-style-type: none">・向山駅ミュージアム・日本一の自由の女神・だるま芋へっちょこだんご汁

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

- ・当圏域内の宿泊施設は、八戸市に集中しており、同市には宿泊施設が約 40 施設あり、1 日あたり約 3,000 室の収容力がある。宿泊施設の規模は、部屋数 200 室を超える宿泊施設は 2 施設、100 室以上 200 室未満の宿泊施設は 8 施設である。宿泊施設のタイプはビジネスホテルが大半を占める。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

首都圏等から当圏域の玄関口である八戸市への主要アクセスは、以下のとおり。

■鉄道

- 東京都：約 2 時間 45 分（東北新幹線「東京駅」）
- 仙台市：約 1 時間 10 分（東北新幹線「仙台駅」）
- 青森市：約 25 分（東北新幹線「新青森駅」）
- 函館市：約 1 時間 30 分（北海道新幹線「新函館北斗駅」）

■飛行機（各空港－三沢空港、三沢空港－八戸の連絡バスの所要時間を加えた時間）

- 東京（羽田）：約 2 時間 10 分（羽田－三沢空港：1 時間 20 分、三沢空港－八戸：約 50 分）
- 大阪（伊丹）：約 2 時間 20 分（伊丹－三沢空港：1 時間 30 分、三沢空港－八戸：約 50 分）

■東北新幹線八戸駅（八戸市）から区域内各町村への所要時間は、自動車ですら 1 時間 30 分程度。

【外国人観光客への対応】

- ・英語版/繁体字版 HP の運用
- ・多言語支援サービス（ガイドア）を区域内の自治体へ紹介及び導入支援
- ・多言語版パンフレットの作成（英語、中国語（繁体字・簡体字）・ハングル）
- ・観光案内所「はちのへ総合観光プラザ」において、外国語での案内が可能な職員を配置するほか、Wi-Fi 環境を整備（カテゴリーⅡ対応）。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
延べ宿泊者数	DMO の取組効果の把握と今後の効果的な施策立案につなげるため	毎月当圏域内の宿泊施設からの宿泊実績の提供
旅行消費額（平均）	DMO の取組効果の把握と今後の効果的な施策立案につなげるため	当圏域内の宿泊施設、交通機関、及び物産販売施設等 86 施設で来訪者アンケート（QR コード掲載）を実施
来訪者満足度	満足度及び課題の把握につなげるため	同上
リピーター率	DMO の取組効果把握と今後の効果的な施策立案につなげるため	同上
WEB サイトのアクセス状況	今後の効果的な情報発信に関する施策立案につなげるため	当団体 HP へのアクセス状況について、GA4 を活用

4. 戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景 ※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

地域を取り巻く環境は大きく変化しており、旅行ニーズは「モノ消費」から「コト消費」へと移行し、体験や交流を重視する傾向が強まっている。国では令和 6 年に「第 4 次観光立国推進基本計画」を策定し、「持続可能な観光地域づくり」「消費額の拡大」「地方誘客の促進」を柱に、観光を成長戦略の要とする方針を示している。

青森県では「青森県観光戦略 2024」が策定され、八戸市でも観光振興ビジョンを策定する中、VISIT はちのへにおいても、今年度中に八戸圏域を対象とした新たな観光地経営戦略の策定を予定しており、地域全体での戦略的な観光振興に取り組む体制が整いつつある。

一方、円安や物価高、人口減少・高齢化、担い手不足といった構造的課題も顕在化しており、持続可能な観光地域づくりが強く求められている。当圏域ではこれまでビジネス需要中心だった宿泊環境において、観光庁補助事業により、三陸復興国立公園内に高付加価値型宿泊施設が新たに開業し、観光の裾野を広げる動きも進んでいる。

今後は、地域資源を活かした受入環境の整備と情報発信を通じて、多様な旅行者に選ばれる観光地域経営を推進することが重要である。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ■自地域で積極的に活用できる強みは何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸・海・空の交通アクセスの充実 (新幹線、高速道路、フェリー、空港など) ・ 豊かな海岸地形・自然景観 (三陸復興国立公園等) ・ 縄文時代・藩政時代などの歴史・史跡 ・ 豊かな自然から生み出される新鮮な農産物や海産物 ・ 冷涼な風土で発達した独自の粉もの文化 ・ 当地域の人柄と暮らしぶり (方言・素朴さ) ・ 朝市・横丁などの生活文化 ・ 国重要無形民俗文化財に登録されている祭り ・ 中心市街地に集中している文化施設 	弱み (Weaknesses) ■自地域で改善を必要とする弱みは何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外における認知度の低さ ・ 八戸圏域への二次交通 ・ 外国人観光客受入体制の強化 ・ 地域資源の活用・磨き上げ・商品づくり ・ 宿泊施設のビジネス需要による観光客受入に必要なリソース確保が困難 ・ 国際大会など団体の受入可能な宿泊施設が少ない ・ 高付加価値旅行者が求める水準を満たす宿泊施設がない ・ 地域のデータ収集不足による分析の困難さ ・ 冬季観光コンテンツの脆弱性 ・ 気候変動による水産資源の減少
外部環境	機会 (Opportunity) ■自地域にとって追い風となる要素は何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・ インバウンド需要の拡大 ・ 地方部への外国人観光客の誘客促進ための国レベルでの施策の実施 ・ みちのく潮風トレイルを始めとした、地方部の自然に対する旅行者ニーズの高まり ・ 日本食やガストロノミー・ツーリズムに対するニーズの高まり ・ 国レベルでのサステナブルツーリズムの推進 	脅威 (Threat) ■自地域にとって逆風となる要素は何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化による人口減少 ・ 伝統文化・郷土芸能継承や観光産業の担い手不足の深刻化 ・ 国の観光地域づくり戦略による、旅行需要の競争激化・差別化の難化 ・ 消費者における加速する情報収集行動と購買行動のオンライン化 ・ 物価高騰による、国内旅行需要の低迷・地域産品事業者の経営悪化

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入 (様式自由)。

(3) ターゲット

■第1ターゲット層

インバウンドにおける誘客の主なターゲットは、東アジア (台湾、中国、香港、韓国) および欧米豪の市場において、地方部への関心が高い個人旅行者および少人数グループの旅行者層。

■選定の理由

都市部ではなく「自然」「文化」「地域の暮らし」といった体験型コンテンツへの志向が高い層であり、とくに台湾・香港においては訪日リピーターが多く、新しい渡航先として東北地方を選好する傾向が見られる。

また、欧米豪市場では、自然体験やサステナブルツーリズムへの関心が高く、当圏域に位置する「みちのく潮風トレイル」や三陸復興国立公園・種差海岸との親和性が高い。さらに、三沢米軍基地等を活用した情報発信の可能性もあり、訪日未経験層への新たな接点創出が期待できる。

■取組方針

地方志向型の個人・小規模旅行者層に向けて、東アジアおよび欧米豪の両市場に対し、重点的なプロモーションを展開する。台湾・香港市場に対しては、旅行博への出展やFAMトリップの実施を通じて認知と理解を深めるほか、欧米豪市場においてはSNS広告を活用したデジタルプロモーションを行

い、旅のきっかけ創出を図る。

また、種差海岸やみちのく潮風トレイルといった地域資源の魅力発信を強化し、青森県や近隣 DMO との連携による広域周遊の促進を図る。地域の観光関係者と連携しながら、受入体制の段階的整備を進め、「八戸らしさ」を活かした持続可能な観光スタイルの構築を目指す。

■ 第 2 ターゲット層

国内における誘客の主なターゲットは、首都圏在住で、地方独自の文化や地域住民の暮らし、開放感ある自然環境に高い関心と好奇心を持つ旅行者層。

■ 選定理由

当団体が実施した令和 5 年度来訪者アンケート調査において、東京都・神奈川県からの宿泊者が宿泊客全体の約 3 割を占めており、1 人あたりの平均旅行消費額も近隣県からの来訪者に比べて高い傾向にあった。

また、当圏域への来訪動機として、「食」や「自然・文化」といった体験への満足度も高く評価されていることから、地方性・暮らしの魅力を求める首都圏の層に対し、戦略的にアプローチすることが効果的であると判断している。

■ 取組方針

当団体が実施した認知浸透度調査では、八戸市および当圏域を旅先として認知・検討する割合は限定的であり、観光コンテンツの認知度も依然として高くない状況にある。

このため、まずは圏域の認知度向上を目的とした情報発信に重点的に取り組む。具体的には、首都圏メディアとの連携による記事掲載、SNS 広告等の活用による情報発信の強化を図るとともに、旅行会社を対象とした招請事業等を通じ、旅行商品の造成促進と販売連携の構築を進めることで、首都圏ターゲット層に対する誘客を推進していく。

<2024 年度八戸圏域認知浸透度調査 (VISIT はちのへ調べ)>

	八戸市認知層	八戸市興味関心層	八戸市検討層	八戸市来訪層
関東圏(回答件数322)	41.9%	16.1%	11.5%	7.1%
関西圏(回答件数324)	32.7%	15.1%	4.6%	4.6%
岩手県(回答件数178)	65.7%	37.1%	27.0%	36.5%
秋田県(回答件数182)	59.9%	33.0%	23.6%	28.6%
宮城県(回答件数182)	60.4%	28.0%	15.4%	22.5%
北海道(回答件数178)	39.9%	15.2%	7.3%	6.2%

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	はちのへエリアだからこそその“ひとの魅力”と“暮らしぶり”が守られ、伝わっていること
②コンセプトの考え方	<p>VISIT はちのへが対象とする八戸圏域では、温厚でまじめと評される地域住民の人柄や、朝市・横丁文化に象徴される素朴な暮らしが今も息づいており、こうした「人」と「暮らし」の魅力は、地域固有の観光資源となっている。</p> <p>来訪者アンケート調査でも、「人柄がよい」「優しい人が多い」といった声が多く寄せられており、この地域の人々の営みそのものが、他地域との差別化につながる重要な要素である。</p> <p>また、当圏域に位置する三陸復興国立公園・種差海岸では、優れた自然景観とともに、漁業など人々の暮らしが共存しており、自然と生活文化が融合した独自の景観と観光体験を提供している。</p> <p>このように、「暮らしが観光になる」地域のあり方は、国内外の来訪者にとって強い価値を持つとともに、持続可能な観光地域づくりにも合致している。</p>

VISIT はちのへでは、地域住民の営みが未来に引き継がれ、観光によってその価値が可視化・共有される仕組みを構築し、「人の魅力」と「暮らしぶり」が守られ、伝わっていく地域づくりを目指す。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<p>地域一体となった観光地域づくり法人としての体制構築に向け、以下の会議体や取組を通じて、観光関連事業との戦略的整合性の確保および共有を図っている。</p> <p>■VISIT はちのへ評議員会（年 1 回程度） 八戸圏域の副市長・副町長・副村長、青森県、物産関連団体などを構成員とし、圏域全体の政策的方向性や観光戦略に関する意見交換と調整を実施。</p> <p>■VISIT はちのへ理事会（年 4 回程度） 観光・宿泊・商工・金融などの関係事業者で構成され、戦略や事業計画に関する意思決定を通じて、民間の視点を反映した観光地域経営を推進する中核的な意思決定機関として機能。</p> <p>■VISIT はちのへ推進部会（年 1 回） 当団体が設置・運営し、圏域内自治体、商工会議所・商工会、観光協会、物産協会、青森県が構成員として参画。各地域の観光・物産・商工関連施策との連携を目的とした意見交換・情報共有の場を確保している。</p> <p>■圏域町村訪問（年 1 回） 各構成町村を訪問し、当団体の取組を説明するとともに、地域ごとの観光課題を把握・共有。相互理解を深め、戦略の現場実装に向けたフィードバック体制を整備。</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p>■アンケートによる満足度調査とフィードバック体制の構築 当圏域内の約 90 の宿泊・観光施設に対し、来訪者がスマートフォン等からアクセスできる QR コード付きアンケートの設置を依頼し、来訪者の満足度や改善要望などの声を継続的に収集している。 集計・分析したデータは、当団体内で施策や改善検討に活用するとともに、当団体コーポレートサイトでも公表し、関連施設・事業者へフィードバックを行い、現場レベルでの改善を促進している。</p> <p>■観光案内所を通じた利用者の声の収集と活用 当団体が運営する「はちのへ観光案内所」（JR 八戸駅構内）に寄せられる利用者からのご意見・ご要望について、必要に応じて、関係施設・事業者と共有している。これにより、案内業務にとどまらず、地域全体のサービス品質の向上につなげている。</p> <p>■問い合わせフォームを活用した顧客対応と改善促進 当団体公式サイトに設置している問い合わせフォームには、観光客からの観光情報に関する問い合わせのほか、観光スポットに対するご意見・ご要望も数多く寄せられている。</p>

	内容を適宜確認のうえ、関係する施設や事業者と情報を共有し、必要に応じてサービスの改善や対応の見直しにつなげて、観光客視点に立った地域全体での受入体制の向上を図っている。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<p>■八戸圏域における観光情報を一元的に集約・整理し、地域全体で連携した戦略的な情報発信を行っている。情報の収集にあたっては、構成市町村との連携体制として、Google スプレッドシートを活用し、イベント情報や観光素材等を自治体から随時提供いただく仕組みを整備。定期的に情報入力を依頼するとともに、民間事業者については当団体から個別に連絡を行い、必要な情報を収集している。</p> <p>提供された情報は、当団体の媒体での発信に活用され、事前に配信スケジュールを立てた上で計画的に運用している</p> <p>当団体のホームページや SNS を活用した定期的な発信に加え、各種プレスリリースやメディアとの関係性構築を通じて、記事掲載などのメディア露出機会の創出にも努めている。</p> <p>また、発信した情報については、ホームページの閲覧数や SNS のインサイトを分析し、反応や傾向を把握することで、より効果的な発信内容やタイミングを検討している。今後は、こうした分析結果を活用しながら、戦略的なプロモーションの実施や改善につなげる PDCA 型の情報発信体制の構築を目指している。</p> <p>■インバウンドについては、青森県や東北観光推進機構などが行う広域的な取組を活用するため、当団体ではこれら関係機関の事業内容を把握・共有した上で、効果的な連携が図れるよう、地域の観光情報や素材を適時提供している。</p> <p>こうした情報提供を通じて、VISIT はちのへが地域側の情報の取りまとめ・発信窓口として機能し、一元的で効率的なインバウンド対応の支援体制を構築しています。</p>

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. K P I（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須 K P I

指標項目		2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	2026 (R8) 年度	2027 (R9) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	12,191	12,235	12,626	11,300	11,413	11,527
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	10,373	13,394	12,507			
		(-)	(-)	(-)			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	860	800	810	702	709	716
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	811	846	789			
		(8.5)	(25.6)	(26)			
		40	41	42	36	37	38

●来訪者満足度 (%)	目標	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	33.8	38	36.7			
●リピーター率 (%)	目標	66	66	66	68	69	70
	実績	70.3	70.6	67			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

昨年度までの「旅行消費額」「延べ宿泊者数」「来訪者満足度」「リピーター率」についての実績を基に、令和6年度に策定した VISIT はちのへ中期事業計画（令和7～11年度）および令和7年度の外部環境の変化も踏まえて2025年度目標値を設定した。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

令和6年度の八戸圏域への来訪者一人当たりの平均旅行消費額は、25,979円であり、その内宿泊費は10,752円（前年比103%）と増加傾向となっている。また、実質賃金が減少傾向の中、旅行消費額全体について、来訪者に当圏域内の魅力的な商品・サービスに関する情報を効果的に届けることで、前年度から低下しないことを目指し一人当たり26,400円で設定した。

全体の旅行消費目標額は、「R7延べ宿泊者目標702,000人泊÷R6実績平均宿泊日数1.64泊」×R7旅行消費目標額26,400円により算出。

●延べ宿泊者数

令和7年度は文化芸術・スポーツ関係のイベントといった宿泊に繋がるイベント効果を踏まえ、702,000人泊に設定。

※令和6年度目標との差異について、令和7年度から宿泊実績の提供施設数が23施設から21施設になることを受け、令和6年度実績から減少する2施設の実績を除いて推計を行ったもの。

●来訪者満足度

八戸圏域への来訪者（宿泊者）の満足度は、圏域の各事業者の商品・サービス、施設等の受入環境に対する総合的な評価を示すことから、前年度からの増加を目指す。

●リピーター率

リピーター率の高さは、これまでの八戸圏域内の商品・サービス、施設等の受入環境に対する信頼の高さを示すことから、リピーター率について、前年度からの増加を目指す。

※インバウンド旅行者の各指標について、2023年度より当圏域に来訪した外国人旅行者へのアンケート調査を行っているが回答件数が少ない。十分な回答件数に基づき目標設定を行うため2025年度も継続してアンケート調査を行い目標値の設定を検討していく。

（2）その他の目標

指標項目		2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	2026 (R8) 年度	2027 (R9) 年度
●（例）住民満足度	目標	()	()	未設定 (未設定)	未設定 (未設定)	()	()

(%)	実績	()	()	()			
●(例) 宿泊施設の稼働率 (%)	目標	()	()	未設定 (未設定)	未設定 (未設定)	()	()
	実績	()	()	()			
●(例) ワンストップ窓口での宿泊予約数 (件)	目標	()	()	未設定 (未設定)	未設定 (未設定)	()	()
	実績	()	()	()			
●(例) メディア掲載回数 (回)	目標	()	()	未設定 (未設定)	未設定 (未設定)	()	()
	実績	()	()	()			
		()	()	()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

※KPIとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

.....

【設定にあたっての考え方】

●(例) 宿泊施設の稼働率

.....

●(例) ワンストップ窓口での宿泊予約数

.....

●(例) メディア掲載回数

.....

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入(経常収益)

年(年度)	総収入(千円)	内訳(具体的に記入すること)(単位:千円)
2022(R4) 年度※実績	589,848	【事業収入等】 301,446 【国補助金等】 0 【市町村からの補助金等】 147,455 【八戸市からの業務受託及び指定管理等】 120,086 【負担金収入(圏域町村分他)】 2,910

		【会費収入】 10,935 【その他】 7,016
2023（Ｒ５） 年度※実績	683,891	【事業収入等】 301,682 【国補助金等】 6,059 【市町村からの補助金等】 196,091 【八戸市からの業務受託及び指定管理等】 124,143 【負担金収入（圏域町村分他）】 2,910 【会費収入】 11,092 【家賃収入】 36,382 【雑収入】 5,532
2024（Ｒ６） 年度※実績	709,195	【事業収入等】 312,385 【国補助金等】 5,311 【市町村からの補助金等】 195,662 【八戸市からの業務受託及び指定管理等】 140,354 【負担金収入（圏域町村分他）】 2,910 【会費収入】 11,385 【家賃収入】 36,272 【雑収入】 4,916
2025（Ｒ７） 年度※予定	752,861	【事業収入等】 328,846 【国補助金等】 0 【市町村からの補助金等】 196,246 【八戸市からの業務受託及び指定管理等】 175,173 【負担金収入（圏域町村分他）】 2,910 【会費収入】 12,155 【家賃収入】 36,668 【雑収入】 863
2026（Ｒ８） 年度※予定	799,237	【事業収入等】 375,222 【国補助金等】 0 【市町村からの補助金等】 196,246 【八戸市からの業務受託及び指定管理等】 175,173 【負担金収入（圏域町村分他）】 2,910 【会費収入】 12,155 【家賃収入】 36,668 【雑収入】 863
2027（Ｒ９） 年度※予定	848,470	【事業収入等】 424,455 【国補助金等】 0 【市町村からの補助金等】 196,246 【八戸市からの業務受託及び指定管理等】 175,173 【負担金収入（圏域町村分他）】 2,910 【会費収入】 12,155 【家賃収入】 36,668 【雑収入】 863

（２）支出

年（年度）	総支出（千円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度※実績	625,122	【一般管理費】 315,347 【情報発信・プロモーション】 49,070 【受入環境整備等の着地整備】 10,236 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 1,194 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 434 【観光イベントの開催費】 12,390

		【その他】 236,451 ・即売事業、貸館事業、駐車場事業、物品等販売事業他
2023（Ｒ５） 年度※実績	695,358	【一般管理費】 409,892 【情報発信・プロモーション】 47,464 【受入環境整備等の着地整備】 94,483 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】 7,416 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 3,825 【その他】 132,278 ・即売事業、貸館事業、駐車場事業、物品等販売事業他
2024（Ｒ６） 年度※実績	741,772	【インバウンド事業】 10,924 【情報発信事業】 37,365 【受入環境整備等の着地整備】 75,315 【コンテンツ開発（商品造成支援事業等）】 7,989 【マーケティング（統計調査事業等）】 1,022 【収益関連事業（即売、貸館、駐車場、指定管理等）】 156,005 【一般管理費等】 453,151
2025（Ｒ７） 年度※予定	780,418	【インバウンド事業】 12,969 【情報発信事業】 36,660 【受入環境整備等の着地整備】 76,820 【コンテンツ開発（商品造成支援事業等）】 3,074 【マーケティング（統計調査事業等）】 716 【収益関連事業（即売、貸館、駐車場、指定管理等）】 247,345 【一般管理費等】 402,834
2026（Ｒ８） 年度※予定	821,078	【インバウンド事業】 12,969 【情報発信事業】 36,660 【受入環境整備等の着地整備】 76,820 【コンテンツ開発（商品造成支援事業等）】 3,074 【マーケティング（統計調査事業等）】 716 【収益関連事業（即売、貸館、駐車場、指定管理等）】 247,345 【一般管理費等】 443,494
2027（Ｒ９） 年度※予定	863,856	【インバウンド事業】 12,969 【情報発信事業】 36,660 【受入環境整備等の着地整備】 76,820 【コンテンツ開発（商品造成支援事業等）】 3,074 【マーケティング（統計調査事業等）】 716 【収益関連事業（即売、貸館、駐車場、指定管理等）】 247,345 【一般管理費等】 486,272

※当団体の正味財産増減計算書に基づく

（３）自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

【収益事業】

当団体が保有・管理する施設において実施している物産品販売、宿泊・貸館事業、駐車場事業等について、各事業の収支状況や利用実績の動向を踏まえ、内部で継続的に分析を行っている。今後は、効果的な地場産品の販路拡大やイベントとの連携強化、宿泊・貸館の新規利用者獲得に向けた企画や施設運用の効率化などを通じて収益性の向上を図り、安定的な自主財源の確保に向けた取組をさらに強化していく方針です。

また、安定的かつ多様な運営資金を確保する手段の一つとして、八戸市から「ふるさと寄附金」に関する業務を受託している。今後は、寄附実績の増加に向けたプロモーションの強化や、新規出品事業者および地域資源を活用した返礼品開発により戦略的に寄附誘導に取り組むことで、収入の拡大を目指す。

【会費】

会費収入について、既存会員への特典内容の見直しと充実を図るとともに、新規会員の獲得に向けて、地域事業者等にとって魅力的なメリットの提示に取り組んでいく。さらに、役員や既存会員の働きかけを通じた加入促進キャンペーン等の実施により、会員基盤の拡大による安定的な財源確保を目指す。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

青森県八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町は、一般財団法人 VISIT はちのへが当該市町村を対象とした地域連携 DMO として、引き続き地域との連携により魅力的な観光地域づくりを推進していくことに同意している。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携 DMO（県単位以外）や地域 DMO と重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	木下 里美
担当部署名（役職）	観光推進課 主査
郵便番号	〒039-1102
所在地	青森県八戸市一番町一丁目 9 番地 22
電話番号（直通）	0178-70-1110
F A X 番号	0178-80-7348
E - m a i l	satomi_kinoshita@visithachinohe.or.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	青森県八戸市
担当者氏名	小関 翔
担当部署名（役職）	観光課 主幹
郵便番号	031-8686
所在地	八戸市内丸 1 丁目 1-1
電話番号（直通）	0178-43-9252

F A X 番号	0178-46-5600
E - m a i l	sho_koseki@city.hachinohe.aomori.jp

都道府県・市町村名	青森県三戸町
担当者氏名	白山 亮太
担当部署名（役職）	まちづくり課 主幹
郵便番号	039-0198
所在地	三戸郡三戸町大字在府小路町 43
電話番号（直通）	0179-20-1117
F A X 番号	0179-20-1102
E - m a i l	shirayama@town.sannohe.lg.jp

都道府県・市町村名	青森県五戸町
担当者氏名	三浦 姫良倫
担当部署名（役職）	総合政策課 主事
郵便番号	039-1513
所在地	三戸郡五戸町字古館 21-1
電話番号（直通）	0178-62-7952
F A X 番号	0178-62-6317
E - m a i l	tourism@town.gonohe.aomori.jp

都道府県・市町村名	青森県田子町
担当者氏名	村木 孝行
担当部署名（役職）	商工振興課 2次3次産業戦略推進グループ 主幹
郵便番号	039-0292
所在地	三戸郡田子町大字田子字天神堂平 81
電話番号（直通）	0179-20-7115
F A X 番号	0179-32-4294
E - m a i l	muraki0525@town.takko.lg.jp

都道府県・市町村名	青森県南部町
担当者氏名	工藤 淳一
担当部署名（役職）	商工観光課 課長補佐
郵便番号	039-0592
所在地	三戸郡南部町大字平字広場 28-1
電話番号（直通）	0178-38-5965
F A X 番号	0178-38-5985
E - m a i l	kudo-junichi@town.aomori-nanbu.lg.jp

都道府県・市町村名	青森県階上町
担当者氏名	小鷹 捺緑
担当部署名（役職）	産業振興課 主事
郵便番号	039-1201
所在地	三戸郡階上町道仏字天当平 1-87
電話番号（直通）	0178-88-2875
F A X 番号	0178-88-2117
E - m a i l	sangyou@town.hashikami.lg.jp

都道府県・市町村名	青森県新郷村
担当者氏名	福山 雄亮
担当部署名（役職）	企画商工観光課 課長補佐兼商工観光係長
郵便番号	039-1801
所在地	三戸郡新郷村大字戸来字風呂前 10
電話番号（直通）	0178-78-2111
F A X 番号	0178-78-2118
E - m a i l	yu_fukuyama@vill.shingo.lg.jp

都道府県・市町村名	青森県おいらせ町
担当者氏名	柴山 拓也
担当部署名（役職）	商工観光課 主査
郵便番号	039-2289
所在地	上北郡おいらせ町上明堂 60-6
電話番号（直通）	0178-56-4703
F A X 番号	0178-56-4264
E - m a i l	takuya.shibayama@town.oirase.aomori.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町

【設立時期】 平成31年4月1日

【設立経緯】

④その他(地域内の観光協会や物産協会等が統合して、DMOを新設)

【代表者】 佐々木 伸夫

【マーケティング責任者(CMO)】 阿部 寿一

【財務責任者(CFO)】 柿本 誠

【職員数】 87人(常勤27人(正職員21人・出向等6人)、非常勤60人)

【主な収入】

収益事業 365百万円、補助金・指定管理等344百万円(令和6年度決算)

【総支出】

事業費 288百万円、一般管理費 453百万円(令和6年度決算)

【連携する主な事業者】

八戸圏域内の観光協会、商工会、観光物産事業者、宿泊事業者、交通・流通事業者、湊日曜朝市会、八戸横丁連合協議会、金融機関など

KPI(実績・目標)

記入日: 令和7年6月20日

※()内は外国人に関するもの。

項目		2022 (R4)年度	2023 (R5)年度	2024 (R6)年度	2025 (R7)年度	2026 (R8)年度	2027 (R9)年度
旅行 消費額 (百万円)	目標	12,191 ()	12,235 ()	12,626 ()	11,300 ()	11,413 ()	11,527 ()
	実績	10,373 ()	13,394 ()	12,507 ()	—	—	—
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	860 ()	800 ()	810 ()	702 ()	709 ()	716 ()
	実績	811 (8.5)	846 (25.6)	789 (26)	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	40 ()	41 ()	42 ()	36 ()	37 ()	38 ()
	実績	33.8 ()	38 ()	36.7 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	66 ()	66 ()	66 ()	68 ()	69 ()	70 ()
	実績	70.3 ()	70.6 ()	67 ()	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

- ①東アジア(台湾、中国、香港、韓国)および欧米豪の市場において、地方部への関心が高い層
- ②首都圏在住、地方独自の文化や地域住民の暮らし、開放感ある自然環境に高い関心と好奇心を持つ層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・認知向上のための情報発信強化
- ・受入環境整備の強化

【観光地域づくりのコンセプト】

はちのへエリアだからこその“ひとの魅力”と“暮らしぶり”が守られ、伝わっていること

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・旅行商品造成を目的とした旅行会社やインフルエンサーの招請
- ・地域事業者と連携した商品開発

【受入環境整備】

- ・観光ガイド育成を目的としたガイドプログラム及び団体間の意見交換会を実施
- ・種差海岸エリアを拠点としたレンタサイクルの導入
- ・種差海岸遊覧バス及び日曜朝市循環バスの運行支援

【情報発信・プロモーション】

- ・首都圏メディアを活用した露出機会の創出(メディア訪問やメディア招請ツアーの実施)
- ・首都圏等へのオンライン広告の配信(20代以上の男女、お祭り、イベント、自然、アウトドア等への興味関心層)

【インバウンド】

- ・台湾での現地レップ配置によるセールス活動。台湾旅行博へ出展
- ・海外インフルエンサー招請や他DMO等と連携したモニターツアーの実施

